

先人の想いを胸に 新たな歴史を刻む

老人クラブ

あかつき 長寿会



▲奉仕活動で汗を流すあかつき長寿会会員

東部第一・第二連合会（9町内会）を区域とし、市内の老人クラブで、最大の会員数144人を有する、あかつき長寿会（川村尚会長）。4月16日には創立50周年記念式典を開催し、節目となる年を祝いました。「昭和38年に老人福祉法が制定されたことをきっかけに、あかつき長寿会は誕生しました。当時、駅東側は田んぼも多く、宅地化が進んで



▲巻頭に東部地域を望む航空写真を掲載した手作りの記念誌。

いないなか、一つの老人クラブにまとめようと60人の会員が集まりました」と先人たちの功績を称えながら式辞を述べる川村会長。この日配られた約100ページにわたる記念誌は、会長を中心とした編集委員が1年をかけて手作りで製作。「50年目で会として初めて作成した記念誌。資料収集など苦労もありましたが、これから歴史を語り継ぐための1ページを残せたと思います」と作成時の思いを振り返ります。

会員の平均年齢が現在78歳になるあかつき長寿会。子どもたちに餅つきを体験させたり、竹馬や紙ヒコーキ作りなどの昔遊びを教えながら、お年寄り子どもたちがふれあう伝承活動をはじめ、東部児童センターにある花壇の管理や中央歩道橋の清掃を行う奉仕活動など地域の美化にも貢献しています。

また、健康増進活動として

ハイランドふらので開催された記念式典で、歴代の会長に感謝状が手渡される ▶



てパークゴルフ部などのクラブ活動も盛んに行われ、冬も体を動かしてもらおうと今年からフロアカーリング部の設立をめざしているそうです。「体の調子が悪いと楽しさも半減してしまいます。健康であることが一番大切」と健康づくりの研究も定期的に行い、地域の歯科医を招いて口のケアに関する指導を受けるなど、地域に住む人の力も新たに取り入れています。

これからは連合町内会と協力体制を構築しながら、地域が一体となった活動を実践していきたい」と話す川村会長。いろいろなことに挑戦しながら、会の新たな歴史が刻まれていきます。



▲伝承活動の餅つき会に参加した子どもたちとふれあいが楽しむ会員